

## 6. 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン

### 1) はじめに

文部科学省平成 29 年度 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン事業のもと、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムでは、「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」事業として様々な取り組みを行っている。本学は、高知県立大学大学院・岡山大学大学院・徳島大学大学院・広島大学大学院・山口大学大学院の 5 つの大学院で組織されるがん高度実践看護師 WG の幹事校として活動し、がん看護専門看護師の養成およびがん看護の質向上に向けた取り組みを行っている。本学では、平成 30 年度は 38 単位のがん高度実践看護師教育課程の修了生を 4 名輩出し、1 名の修了生ががん看護専門看護師の認定を受けた。

### 2) がん高度実践看護師WGの活動

がん高度実践看護師ワーキンググループでは、「1.がん高度実践の成」「2.がん看護の質向上への貢献」を 2 つの活動テーマに挙げ、①各大学によるがん高度実践看護師の育成、②がん高度実践看護師リカレントコースの開催、③がん高度実践看護師 WG 講演会の開催、④5 大学院がん看護合同セミナーの開催、⑤11 大学院チーム医療合同演習への参加 (教員は FD) ⑥HP などによる広報活動、⑦各大学におけるセミナー・特別講義の開催、⑧修了生に対するがん看護 CNS 認定試験までのサポートの 8 つの活動について取り組みを行った。

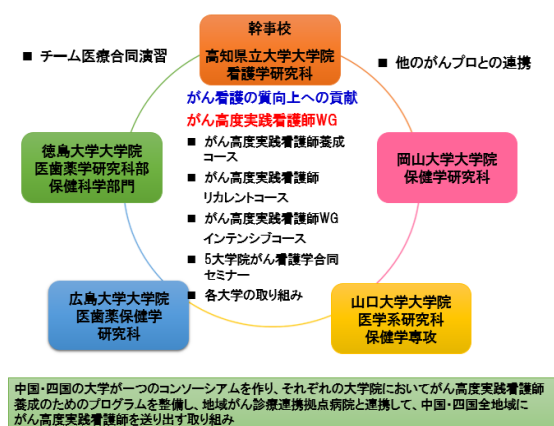


図 1 がん高度実践看護師 WG の活動

### 3) 高知県立大学の取り組み

高知県立大学大学院では、「1. がん高度実践看護師の養成」、「2. 看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動」の 2 つを活動のテーマとして、取り組みを行っている。

がん高度実践看護師の養成では、正規の 38 単位の教育課程のプログラムに加え、がん看護実践を豊かにする取り組みを行っている。看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動には、がん高度実践看護師 (APN) コース II、がん看護インテンシブコース I がある。

## (1)がん高度実践看護師の実践力を豊かにする取り組み

平成 30 年度は、38 単位のがん高度実践看護師教育課程の修了生 4 名を輩出した。がん看護実践看護師教育課程に加え、がん看護実践を豊かにする取り組みとして、以下のような取り組みを行っている。

### ①がん高度実践看護師（APN）セミナー

日 時：平成 30 年 6 月 7 日（木）～7 月 11 日（水）（このうち 7 日間）

場 所：高知県立大学看護学部棟 C322

参加者：各回 2～4 名（がん看護学領域学生）

高知県内で活躍する修了生のがん看護専門看護師（修了生）より、高度実践看護師としての役割機能別の活動や各々の立場における活動の実際について話していただき、学生は先輩の活動から、CNS の役割機能を具体的にどのように活用するかということや、高度な看護実践とは何かを考え学ぶことができおり、自身の目指す高度実践看護師に向けての課題を見出すことができた。

### ②5 大学院がん看護学合同セミナー

テーマ：「がん患者におけるリンパ浮腫と症状マネジメントの実際」

講 師：井沢知子先生(京都大学大学院医学研究科 助教授がん看護専門看護師)

今井芳枝先生(徳島大学医歯薬学研究部 保健科学部門看護学講座准教授)

日 時：平成 31 年 1 月 5 日（土）、1 月 6 日（日）

場 所：徳島大学

参加者：5 名

がん高度実践看護師WGの大学院に在籍するがん高度実践看護師コース大学院生を対象としたリンパ浮腫ケアセミナーを毎年開催しており、本学からは 1 名の学生が参加した。学生は講義と演習を通して、リンパ浮腫のメカニズムや症状マネジメントの実際を学修することができた。そして、高度実践看護師は、患者が継続できるセルフケアを習得できるようエビデンスのあるケアを提供することや、関連する多職種と連携し、チームで継続したケアを行えるよう調整する役割を担うことを改めて学ぶ機会となった。

### ③チーム医療合同演習への参加

テーマ：AYA 世代がん

日 時：平成 30 年 8 月 5 日（土）

場 所：岡山アークホテル 牡丹の間

参加者：42 名

〈特別講演〉

講演会：「AYA 世代がん患者の妊孕性温存のための新展開」

講師：岐阜大学大学院医学系研究科産科婦人科学教授 森重 健一朗 先生

〈ワークショップ〉以下の 2 症例について多職種で構成されたグループで検討

ワークショップⅠ：症例：白血病患者の妊孕性、生殖機能温存療法

ワークショップⅡ：症例：妊娠・授乳期の AYA 世代乳がん患者の治療

11 大学院の大学院生が一同に会し、チーム医療合同演習を毎年開催しており、平成 30 年度は各大学から 42 名のがんプロ学生と 14 名の教員がファシリテーターとして参加し、本学からは 5 名の学生が参加した。講演会とワークショップを通して学生は、妊孕性の問題はチームで関わるのが重要となり、看護師には、患者の理解を促し継続的な意思決定支援を行うこと、自身の知識を向上させるとともにいつ誰と協働すべきかを判断できる能力を身につけ、多職種をつなぐ役割が求められることを学ぶことができていた。また、他大学の学生との意見交換を通して、交流を深めることができた。

## (2)看護職の看護実践能力の向上を目指す教育活動

### A:がん高度実践看護師（APN）コース

このコースでは、大学院在学中の学生を対象とした①がん高度実践看護師（APN）コースⅠと、中四国の専門看護師、修士課程修了生、がん看護領域の認定看護師を対象とした②がん高度実践看護師（APN）コースⅡの 2 コースを開講した。

①がん高度実践看護師（APN）コースⅠは、「Life を支える高度実践看護師養成コース～がん患者と家族のライフステージのニーズに応える高度実践看護師養成～」として、がん患者と家族のライフステージのニーズに応えるがん高度実践看護師および、がん看護をサブスペシャリティとする高度実践看護師の養成を目的としている。

②がん高度実践看護師（APN）コースⅡは、専門看護師・認定看護師のリカレント教育であり、「がん看護の専門性の高い看護師養成コース～Cancer Trajectory をたどる人のニーズに応える高度実践を創造する看護師の養成～」として、ライフステージやがんの特性を考慮して、がんとともに生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師の養成を目的としている。

両コースとも、下記の開講内容で、それぞれの目的の達成を目指して開講された。

履修科目：4 単位 60 時間

高齢がん看護基盤論 高齢がん診断治療学 高齢がん看護実践論

高齢がん看護展開論

履修期間：平成 30 年 8 月 25 日(土)～平成 31 年 2 月 17 日(日)(このうち 8 日間)

修了要件：コースで定める4単位60時間のうち各科目8割以上履修した者には、  
高知県立大学からの修了証を交付

場 所：高知県立大学池キャンパス看護福祉棟2階 F208

受講者：29名（①APNコースⅠ：7名、②APNコースⅡ：22名）

がん高度実践看護師（APN）コースは、専門看護師・認定看護師のリカレント教育を目的としたプログラムである。平成30年度は『高齢がん患者の治療とケア』をテーマに、高齢がんの診断や治療に関する知識、高齢がん看護に関する専門的な知識と技術を学び、老年期のライフステージにあるがん患者のニーズに対応することのできる、専門性の高い看護実践力の修得を目指して実施し、17名の修了生を輩出した。研修生は高知、香川、愛媛、徳島、岡山、山口、広島、鳥取から参加した22名であり、がん看護専門看護師、がん看護に関連する認定看護師、老人看護に関連する認定看護師であった。

8日間のコースでは、講義やグループワーク等で知識を修得したのち、最後の2日間には、既習の理論や現状、課題をふまえ、高齢がん患者の特徴を有する3つの事例についてグループワークによる展開を行い、知識の統合を行った。

#### 《研修生の学び》

「高齢者の特徴やアセスメントの視点を学ぶことができ、アセスメントから予測性を持った関わりが重要となることが分かった」「高齢者を年齢だけで評価するのではなく、多面的に評価することの重要性が分かった」「グループワークで他の専門分野の看護師の意見が聞けてより深く考えることができるようになった。自分では出てこない視点や知識を得ることができた」という声が聞かれており、高齢がん患者の機能や病態を踏まえた生活の質向上を目指した看護の専門的知識を修得する機会となっていた。また、学びを今後の実践にどう活かしていくかが新たな課題と捉えており、専門性の高い看護実践の基盤となる研修になったと考える。

### B：インテンシブコース（リカレント教育）

#### ①インテンシブコースⅠ

～高齢がん患者に安心をもたらすケアを創造していく訪問看護師育成～

#### 《コースの概要》

目 的：高齢がん患者の入院早期から退院後の生活を見通してケアを提供し、在宅医療の可能性と選択肢を広げることのできる看護職および、チーム医療を基盤とする在宅がん医療をコーディネートしていくことのできる、高齢がん患者とその家族のケアに関する専門的知識と技術を有する看護師の養成

目 標：

- a. 高齢がん患者や家族の理解に必要な基礎的な知識を習得し、高齢者の特徴を踏まえた総合的なアセスメント、看護ケアが実施できる
- b. 高齢がん患者のがんや治療、生活の場の特性を理解して、治療・療養・生活過程を支えるケアを提供することができる
- c. 地域包括ケアシステムにおける高齢がん患者や家族のケアに必要な専門的な知識・技術を習得し、必要な資源や支援を調整することができる
- d. 高齢がん患者の在宅療養生活を維持するための必要な身体管理の知識・技術を習得し、実践できる
- e. 高齢がん患者の意向を尊重したその人らしい療養生活や看取りを実現するために必要なケアが実践できる
- f. 看取りをした遺族に必要な看護ケアを理解するとともに、関わった職種のスプレスマネジメントが行えるように、デス・カンファレンス等の場を調整することができる
- g. 研修を通して自己洞察を深め、高齢がん患者に対する専門性の高い看護師としての意識をもち、病院と在宅をつなぐ在宅療養支援および看護実践力の高い訪問看護師として機能することができる

対象者：中国・四国地方に在籍する高齢がん患者の看護に携わる訪問看護師および在宅移行支援の必要な高齢がん患者の入院病棟および外来、地域連携室等の看護師

研修期間：講義／演習／見学実習

平成 30 年 10 月 13 日(土)～平成 31 年 2 月 9 日(土)のうち 15 日

履修内容：講義、演習、見学実習、実習の振り返りと事例検討を含む 90 時間  
(表 1)

修了要件：コースで定める 60 時間のうち各科目 8 割以上履修した者には、高知県立大学からの修了証を交付

場 所：高知県立大学池キャンパス看護学部棟 3 階 C313、C112

受講者：11 名

平成 30 年度より新たにスタートしたがん看護インテンシブコース I は、高知県の在宅高齢がん看護、高齢者看護、在宅医療や福祉に携わる機関や多職種と協働し、高齢がん患者のケアに特化した研修である。また、座学だけでなく、e-learning、シミュレーション教育を取り入れ、講義-演習-実習をつなげる 15 日間の現任教育のプログラムである。受講生は高知県内で訪問看護ステーション、在宅療養支援診療所、急性期病院、緩和ケア病棟に勤務する看護師 11 名であった。

表1 カリキュラム

	カリキュラムの内容	時間	方法
1	オリエンテーション	1	
2	高齢がん患者の QOL	2	講義・演習
3	高齢がん患者と地域包括ケアシステム	3	講義
4	高齢がん患者の在宅療養移行支援	6	講義・演習
5	高齢がん患者の在宅生活におけるセルフケアとリハビリテーション		講義・演習
6	高齢がん患者の治療 ①がん放射線療法②がん化学療法③ストーマおよびストーマ周囲の皮膚トラブルに対する看護④看護がんの治療により生じる有害事象への看護(口腔ケア)	8	講義・演習
7	高齢がん患者の在宅での症状マネジメント ①倦怠感②疼痛③嘔気・嘔吐④呼吸困難	9	講義・演習
8	高齢がん患者とコミュニケーション	1.5	講義
9	高齢がん患者の認知とケア	3.5	講義・演習
10	高齢がん患者の意思決定支援	4.0	講義・演習
11	高齢がん患者の家族と家族ケア	3.0	講義・演習
12	高齢がん患者の栄養	2	講義
13	高齢がん患者の看護倫理	3.5	講義・演習
14	高齢がん患者のエンド・オブ・ライフと在宅での看取り	5	講義・演習
	見学実習 3～4 日間（下記の中から選択：複数可） ①訪問看護ステーション ②在宅療養支援診療所 ③調剤薬局 ④がん診療連携拠点病院	32	実習
15	実習の振り返りを交えた事例検討と修了式	6	

《研修生の学び》

「高齢者のアセスメントの視点や特徴が学べた」「訪問看護に必要な知識を学び、次の日からの実践に役立てることができた」「高齢者が持つ知識や経験、強みを活かしたケアを行う必要性が分かった」「見学実習では在宅の場をリアルに感じることができ、療養の場がイメージできた」という声が聞かれており、高齢がん患者の在宅療養を支援するための様々な知識や技術を学び、新たな気づきや視野の広がりを得ることができていた。今後は、それぞれの場で研修の学びを発揮し、高知県内における高齢がん患者の在宅療養移行支援及び訪問看護の充実につながると考える。

## ②インテンシブコースⅡ：がん高度実践看護師WG講演会

テーマ：AYA 世代を支えるがん看護—看護師ができること、伝えたいこと—

講師：二人のがん体験者

「私のがん体験と医療者（看護師）に望むこと」

津村 明美 先生（静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師）

「AYA 世代がん患者のいまと将来を支える看護」

日時：平成 30 年 12 月 22 日（土）13：00～16：40

場所：高知県立大学池キャンパス 看護福祉棟 2 階 F 206 講義室

参加者：72 名

がん高度実践看護師WGでは、「ライフステージの様々な新ニーズに応える看護の質向上を推進する看護師養成」を 5 年間の全体テーマとし、平成 30 年度は「AYA 世代を支えるがん看護—看護師ができること、伝えたいこと—」をテーマに講演会を開催した。

講演会には、高知、愛媛、香川、徳島、岡山、広島、兵庫、神奈川から AYA 世代がん看護に関心の高い 72 名の方の参加があった。参加者全員が「AYA 世代がん患者を支える看護—看護師ができること、伝えたいこと—」について具体的に分かったと回答し、98%の方が講演内容に満足したと回答していた。さらに、看護師が 65%、教員 11%、保健師 4%、助産師 1%の他、看護学生 11%、大学院生 8%と、医療従事者だけでなく、教員や看護学生など様々な方の参加があり、多様なニーズに応えることのできた講演会であったと考える。

また、参加者は「がん看護に関する知識が増えた（28%）」「がん看護に対する視野が広がった（28%）」と回答しており、さらに 90%以上参加者がこの講演会が「がん看護の専門的な学習を深める意識を高める動機づけになった」、「がん看護のキャリア・アップを目指す動機づけになった」と回答していることより、講演会ががん看護の専門性を高め、がん医療の現場を支える人材養成につながると考える。

## 4) おわりに

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランに採択された、中国・四国の「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」において、がん高度実践看護師 WG の幹事校として活動を行った。今年度は、2 名のがんプロ学生を迎え、6 名の学生ががん高度実践看護師教育課程で学修した。現在、修了生の 37 名ががん看護専門看護師として全国で活動している。今後は、養成人数の継続・維持に加え、38 単位の教育課程を修了した CNS が、所属施設やがん医療の中でどのような成果、変革をもたらすか等のアウトカムを評価する必要があると考える。また、APN コースⅠ・ⅡやインテンシブコースⅠ・Ⅱについては、今年度の内容を評価・修正し、質の向上を図っていく。